

平成二十一年度引継式辞

昭和一六年開校の清友学園高等女学校にはじまる本校は、清友学園高等学校、八尾市立清友高等学校、大阪府立清友高等学校と、設置者や呼び名は変遷しますが、七〇年近くにわたり「清友」の名は変わらず脈々と受け継がれてきました。本日、「清友は」「みどり清朋」に引き継がれます。皆様とともに、ここに清友の長い歴史を振り返りたく存じます。

清友の名は当時の清水谷高等女学校（現清水谷高等学校）の同窓会である清友会に由来します。母校創立四〇周年を記念して、清友会は昭和一六年に清友学園高等女学校を設立しました。清水谷高等女学校第三代校長生田鹿之丞先生を初代校長に迎え、第二代校長吉持博先生も清水谷からお迎えしました。このお二人はその後の教職人生を清友に捧げられ、大変な苦労を重ねられる中で、清友をこよなく愛されたと聞きます。生田校長時代、高女一期生が卒業した翌年の昭和二一年に清友幼稚園を開設、昭和二二に年新学制により清友学園中学校を設置、昭和二三年に清友学園高等学校となります。そして吉持校長時代の昭和三一年に八尾市に移管され中学校が廃止されます。清友会との一五年間のご縁はここで切れるのですが、八尾市立清友高等学校の当時の入学案内に「府立清水谷高等学校姉妹校」という文字があります。清友会は清友の生みの親であり、清水谷高等学校は清友の兄や姉であり、本校の初期の歴史においては大変深い関係にありました。半

世紀以上の時を経て、本日、清友会理事長様と清水谷高等学校校長様のご列席をいただいていることに深い感慨を覚えます。高女一期生は八〇歳を超えられましたが、毎年集われ、清友での絆を一生のものとして残しています。当時の校訓ともいえるべき八綱領を諳んじておられますが、その中に「温雅なる気品」という言葉があります。「温雅気品」、学園の様子が偲ばれるとても素敵な言葉です。

八尾市立清友高等学校は昭和三十一年から昭和五十四年までの二三年間、地域の学校として親しまれた府下では数少ない公立の女子校でした。当初は府下全域から受験ができ、倍率は二倍に近く、公立で一、二を争う狭い門の大変人気のある学校でした。昭和三十三年の高松宮妃殿下のご視察は、本校の女子教育に寄せる期待を物語っています。定員も四五〇名から六〇〇名そして九〇〇名へと増加しました。行事の清友といわれるほどの多彩な学校生活で、先生方と議論を重ねつつ自主性をもって行動し、社会生活に必要な「人間力」が養われたといえます。清友の「女子力」は学園時代の先輩方から受け継がれ、しとやかな中にも粘り強く根気よく成し遂げることを身につけたようです。そんな清友生は企業からの評価が高く、就職するなら清友と言われたとも聞きます。また卒業旅行の帰途、広島駅で下車する際に車内をきれいに清掃し、車掌さんにお礼を言って降りたというエピソードを取り上げて、八尾市在住の作家、今東光氏が「嫁にするなら八尾市の清友高校の生徒さんのような人」とテレビで話されたこともあったと

いうことです。少人数の集団が持つ家庭的な雰囲気があり、教職員も含めたその温かい人間関係は卒業後もずっと続いています。

昭和四七年の大阪府における学区制・総合選抜制の計画発表が契機となり府立移管への検討が始まりますが、様々な困難があり実現するまで七年の歳月を要します。昭和五四年に府立清友高等学校となり、八尾市柏村からこの千塚の地に移り、新たなスタートを切ります。クラス数も倍増し男女共学になりました。共学に移行時は困難な時期もあったと聞きますが、クラブ活動も次第に活発化し全国大会出場という結果も残しました。丁寧な進路指導は市立時代の伝統を引き継いでいます。近年は、「地域から信頼される学校」「進路を切り開く学力の育成」「生徒の生き方に迫るキャリア教育」を三つの重点項目としてきました。「キャリアデザイン夏期特別講座」というユニークな職場体験講座を三年間実施し、その企画はみどり清朋高校に引き継がれています。

清友学園高等女学校・清友学園高等学校として一五年、八尾市立清友高等学校として二三年、大阪府立清友高等学校として三一年、清友の六九年の歴史は変遷を重ねてきました。しかし、清友という名は変わらず、その名前のもと、卒業生は母校をこよなく愛してきました。卒業生数は高女・学園時代が一五〇九名、市立時代が五二七二名、府立が本日の卒業生も含めて一一四六七名、実に総数一八二四八名に及びます。

私が本校に赴任してからのこの三年間は、今を生きる府立三一期生・三〇期生・二九期生と過ごす日々であるのはもちろんのこと、高女一期生をはじめ、各時代の清友の卒業生や清友にかかわる人々と出会い、清友の六九年の歴史を知り、その思いに触れる日々でありました。

清友高校はここにみどり清朋高等学校に引き継がれます。校章も長い伝統を持つ「梅の花」から「はばたく鳥」となります。「はばたく清友」は府立以降の清友の記念誌の変わらぬタイトルですが、池島高校と清友高校の歴史と伝統を引き継ぐ若いみどり清朋高等学校が校章の「はばたく鳥」のように未来に大きくはばたいていきますようにと願って引継ぎ式の式辞といたします。

平成三二年三月六日

大阪府立清友高等学校長 里 恵美